

Case 734: CISG 25, 26, 39 (1), 49 (1)(a), 49 (2)(b)(i)

Spain: Audiencia Provincial de Castellón (Sección 3ª)

No. 138/2006

MOTORTRACCION CASTELLON, S.L. v. D. Evaristo

21 March 2006

Published in Spanish: <http://www.uc3m.es/cisg/sespan53.htm>

Abstract prepared by Pilar Perales Viscasillas, National Correspondent

The seller, a German company, sold devices to a Spanish company to reduce the consumption of gasoline in cars. The purchase price was due in January 2001. The gadgets did not reduce the gasoline consumption and the buyer orally informed the seller of this problem. The seller visited the buyer's premises in June 2001 to verify the lack of conformity. In March of the following year the buyer formally notified the seller the nonconformity, and avoided the contract.

The seller sued the buyer claiming the outstanding contract price, which the buyer denied paying due to the goods' lack of conformity. The court noted that the lack of conformity of the goods was due to a hidden default, according to article 39 (1) CISG. However, the court held that the time of the written notification by the buyer to the seller was not within a reasonable time according to article 39 (1) CISG and thus upheld the seller's claim. The buyer appealed the decision.

The appellate court noted that the lack of conformity of the goods constituted a fundamental breach according to article 25 CISG. The court observed that the buyer had orally informed the seller about the goods' non-conformity and its intention of returning them before the written notification took place, which even resulted in the seller's visit to the buyer. Thus, the court held that the buyer had notified the seller of its intention to avoid the contract according to article 26 CISG and article 49 (1)(a) CISG. In addition, the court decided that these communications took place within a reasonable time according to article 49 (2)(b)(i) CISG. The buyer's appeal was, thus, upheld.

売主たるドイツの会社がスペインの会社に自動車のガソリン消費を減らすための装置を売却した。購入代金は2001年1月に支払われることとされた。当該機械装置はガソリンの消費を減らさなかったため、買主はこの問題を売主に口頭で通知した。売主はその適合性の欠缺を確かめるために2001年6月に買主の事務所を訪ねた。翌年の3月、買主は右不適合を正式に通知し、契約を解除した。

売主は買主が物品の不適合を理由に支払いを拒んでいる未払いの売買代金を請求する訴えを提起した。裁判所は物品の適合性の欠缺はCISG39条1項にいう隠れた瑕疵によるものであると指摘した。しかしながら、裁判所は買主の文書による通知がなされた時期がCISG39条1項の合理的な期間内になかったことから売主の請求を認容する判決を下した。これに対し買主は控訴した。

控訴審は物品の適合性の欠缺がCISG25条の重大な契約違反を構成すると指摘した。裁判所は買主が物品の不適合及び返却の意思を文書による通知がなされる前に口頭で通知しており、それは売主の買主のもとへの訪問という結果さえもたらしたと述べた。よって、裁判所は、買主は売主に対してCISG26条及び49条1項a号に基づく契約解除の意思を通知していると判示した。さらに、裁判所はこれらの通信がCISG49条2項b号iの合理的な期間内になされたと判断した。したがって、買主の控訴は認容された。

条文

25条 当事者の一方が行った契約違反は、相手方がその契約に基づいて期待することができたものを実質的に奪うような不利益を当該相手方に生じさせる場合には、重大なものとする。ただし、契約違反を行った当事者がそのような結果を予見せず、かつ、同様の状況の下において当該当事者と同種の合理的な者がそのような結果を予見しなかったであろう場合は、この限りでない。

26条 契約の解除の意思表示は、相手方に対する通知によって行われた場合に限り、その効力を有する。

39条1項 買主は、物品の不適合を発見し、又は発見すべきであった時から合理的な期間内に売主に対して不適合の性質を特定した通知を行わない場合には、物品の不適合を援用する権利を失う。

49条1項 買主は、次のいずれかの場合には、契約の解除の意思表示をすることができる。

(a) 契約又はこの条約に基づく売主の義務の不履行が重大な契約違反となる場合

同条2項 買主は、売主が物品を引き渡した場合には、次の期間内に契約の解除の意思表示をしない限り、このような意思表示をする権利を失う。

(b) 引渡しの遅滞を除く違反については、次の時から合理的な期間内

(i) 買主が当該違反を知り、又は知るべきであった時